



している途中で、沢にサルナシの実が落ちていたのに気づいた。樹をさがしてまわりを見回すと右岸の高い所に問題の樹があった。西さんが登ってとる。熟しているのもあって、うまかった。小滝群の最後に沢をうめるようにして大きなチョックストーンがある。これをのりこえて上に出る。

もう水も少なくなってきた。尾根に向かって登る。途中3ヶ所程炭焼き釜のあとがあり、尾根には廃道があった。

(記。)

小深谷沢橋(7:00)——尾根(9:00)

1982年5月23日

大深谷沢

L
石段

天気晴。大深谷沢出合に車を置いて遡行開始。歩きはじめてすぐ1.5m程の小滝がありナメとなる。出だしの奮闘気はなかなか上々である。沢の所々に岩にきざんだ足形や鉄棒が残っていて、昔この沢ぞいの往来がかなり盛んであったようである。

左岸に支沢をわけ、5m 2段の滝を直登する。奮闘気がよかったのはここらあたりまでで、この先は沢が急に明るくひらけてきた。左右をみると桑畑である。いや、桑畑のあとといった方がよいだろう。放棄されて何年もたち荒れ放題となっている。先ほどの道はここに通ずる道だったのかと合点する。それにしても、摺上川ぞいに広がる茂庭地区は農

耕地に恵まれなかったためか、かなりあちこちに点々と畑地をもっていたようである。もっとも近年はこれらのうち支沢の奥に設けられていたものは、その多くが放棄されているようだが。。。。

左岸に水路が走っている。芳振地区へでも農業用水を引いているのだろうか。手入れされた水路は、今も現に利用されていることを示している。

杉の美林と桑畑あとをぬけて更に進むと二俣となり、右へ入る。やがて20mの滝。この沢で目立った滝はこれ1つであった。下3分の2ほどは左岸を、あとは右岸に移って直登する。みたく目以上にホールドもあって、比較的楽に登れた。

水量もめっきり減ってきた。もう源流も近い。兩岸にいくつもの炭焼き釜あとをみる。燃料革命は木炭を追放し、炭焼きはごく一部で行なわれるだけとなってしまったが、盛時の名残りはあちこちで見られる。11時05分、ほとんどやぶこぎなして尾根に出る。尾根には踏跡があった。 (記・

出合(8:15)——二俣(9:30)——尾根(11:05)

赤沢中俣(下降)

1982年5月23日

L

尾根上で20分程小休止してから赤沢の下降にかかる。10分程下って本流へ。この沢もナメが多いようだ。やがて4mの滝。右岸に足形があって、この沢にもいろいろな往来があったことをしのばせる。8mの滝は左岸を捲く。ナメと滝で今のところ奮闘気は上々である。

期待しながら下っていたら、沢がいつべんに平凡となってしまう。もうあまり期待ももてそうにないので、兩岸にかすかに残る踏跡を適当に使いながら下る。この沢沿いにも炭焼き釜あとが多い。桑柵あともあった。

13時10分、兩岸がせまり急に奮闘気がよくなってきた。しかし滝はかからず、すぐまた平凡になってしまった。13時30分、取水ダムに着く。ここで沢からあがり、水路ぞいの踏跡をたどって芳振部落へ出る。 (記・

下降開始(11:25)——取水口(13:30)——芳振(13:50)

布入川

1982年5月23日

L

二俣になった所の橋より入溪。兩岸に石垣が積んで

